

## 勤労観・職業観を高める職場体験活動の事例(中学校)



■ 県内の各中学校では、職場体験活動を総合的な学習の時間の中で工夫して取り組んでいます。このような取組を通して、成果を上げている学校がある一方で、「職場体験活動に行かせることが目的化している」、「職場体験活動後の生徒の変容が十分でない」等の課題をもっている学校もあります。ここでは、これからの課題を解決する取り組みの例を紹介します。

### 職場体験活動を取り入れた総合的な学習の時間の3つのポイント

■ まず、大切にすべきことは、職場体験活動は総合的な学習の時間の探究活動であることです。総合的な学習の時間とするためには、次の3つのポイントを確認します。

**Point 1** 総合的な学習の時間としての目標(ゴール)を明確にする。

**Point 2** 個人課題を設定させ、単元を探究のストーリーとする。

**Point 3** 自己の生き方を考えさせる。



### 単元指導計画の例

■ この例は、勤労観・職業観の勤労観を高めることに重点を置いた取組です。そのため、個人課題については、勤労観に関する課題を設定しています。

- 単元名 「働くことということを見つめてみよう」
- 目標

#### Point 1

##### 【学習内容】

##### \* 勤労観が高まった姿 \*

- 働くことの意味や捉え方が、今までの自分の考えとズレていることに気付く生徒
- 働くことの意味を理解し、働くことへのやりがいや想いを感じる生徒
- 将来を見据え、今やるべき自分の役割の理解と、その役割を果たそうとすることができる生徒



##### 【資質や能力】

##### \* 問題解決能力 \*

- 働くということに関する課題を見出し、追究計画を立て、必要な情報を取捨選択して、課題に対する答えを明らかにする。

##### \* 学び方やものの考え方 \*

- 職業人の働くということへの想いやこだわりを尊重し、コミュニケーションを図りながら自分の考えを主張したり、他者の考えを受けとめたりする。

##### \* 主体的・創造的・協同的な態度 \*

- 働くということについて興味・関心を持ち、他者の考えを受け入れ積極的に職場体験活動に取り組み、その成果を生活の中で生かそうとする。

##### \* 自己の生き方 \*

- 自分なりの勤労観を持ち、将来のために今やるべき自分の役割を理解し、その役割を果たしていこうとする。

#### ■ 単元計画

	学習活動・内容	指導上の留意点
課題把握	1 「働くということ」に対する社会人との考えのズレに気付く。 (1)「働くということ」について自己の考えや疑問を明らかにする。 (2)疑問の答えを予想する。 (3)社会人からのアドバイスを視聴し、ズレに気付く。	○事前に「あなたは、今、働いていますか」について調査を行い、その結果を提示することで、働くことの意味が様々であることに気付かせる。 ○疑問の予想に対する社会人からの評価とアドバイスのビデオを視聴させ、社会人とのズレに気付かせる。




社会人からのアドバイスでは、働くということについて、私たちの予想以外にもっと大切なことがあると言っていたけど、一体何のことだろう？


<p><b>2 「働くということ」に対するズレをもとに追究課題を設定する。</b>                  (1)共通テーマを確認する。                  (2)追究課題を設定する。                  [課題例]                  ・社会人がどのような想いをもって働いているのか明らかにする。                  ・働くということに対するこだわりや工夫を体験を通して明らかにする。</p>	<p>○課題設定の前に、共通テーマ「働くということを見つめてみよう」および職場体験活動を含めた学習の流れを説明し、本単元の学習のゴールを確認する。                  ○気付いた社会人とのズレ(疑問)をもとに追究課題を設定させる。その際、課題の設定と併せて、答えの予想にも取り組ませ、解決への見通しもたせていく。</p>
<p><b>3 課題解決に向けた計画を立て、事業所を訪問し説明する。</b>                  (1)解決のための計画を立てる。                  ・場面 ・内容 ・方法 ・結果の予想                  (2)事業所を事前訪問し、課題と追究計画を説明する。  <b>4 5日間の職場体験活動に取り組む。</b>                  (1)前半の体験活動に取り組み、課題解決の進捗状況を整理する。                  (2)事業所に中間報告を行い、評価とアドバイスをもらう。                  (3)後半の職場体験活動に取り組む。</p>	<p>○課題の答えの予想をもとに、解決のための計画を「場面・内容・方法・結果」を視点に予想させ立てさせる。                  ○事前訪問では、追究課題や計画を生徒が説明し、体験活動の目的を事業所にも共有してもらう。                  ○2日目の体験活動終了時に、短時間、事業所の方に課題解決の進捗状況を説明し、2日間の取組の評価とその後の体験活動へのアドバイスをもらう中間報告会を設定する。                  ○5日目の体験活動終了時にも、同様に報告会を短時間設定する。</p>
<p><b>5 職場体験活動を振り返り、追究課題の答えを考える。</b>                  (1)職場体験活動を通じた、新たな気付きを整理する。                  (2)追究課題の答えを考え、キャッチコピーを作成する。  <b>6 働くということとこれからの自分の生活のかかわりを考える。</b>                  (1)追究課題の答えを生かす場面と具体的な取組を考える。                  (2)働くということに対する自己の生き方のまとめ。  <b>7 単元の学習をまとめ、発表会を行う。</b>                  ・課題解決の過程と答え                  ・働くということに対する自己の生き方</p>	<p>○体験活動終了時の事業所の方からの評価やアドバイスおよび体験活動中の新たな気付きをもとに、追究課題の答えを考えさせる。その際、最も重要な内容を表現するためのキャッチコピー作成にも取り組ませる。                  ○作成したキャッチコピーをもとに、働くということに対する自己の生き方を考えさせる。その際、これからの学校生活・家庭生活・地域での生活等の広がりをもたせ考えさせていく。                  ○発表会では、キャッチコピーを中心に、課題解決の過程や新たな気付き、自己の生き方を発表させ、総合的な学習の時間のまとめとさせる。</p>

**Point 2**


**\* 自己課題の設定**


 もしかしら私が知らない「やりがい」があるということではないのかな？私の課題は『働いている人は、どんなことに「やりがい」をもっているか見つけよう』にしよう。

**\* 追究計画を立てる**


 与えられた調理場での仕事以外にも、自分で仕事を見つけてみよう。また、休憩の時に事業所の人にも積極的に話しかけて確かめてみよう。

**\* 中間報告**

 お客様の「ごちそうさま」の声が聞こえた時、今まで経験したことがない「やった」という気持ちになりました。


 「やりがい」を一つ見つけましたね。明日は、調理場から接客に仕事を変えてみましょう。もっと「やりがい」が見つかると思いますよ。

**\* 課題を解決する**

 「やりがい」とは、仕事をやり遂げた達成感や満足感だと思う。しかも、忙しいほど強く感じた。『忙しいほど、人のため・自分のために達成感』

**Point 3**

**\* 自己の生き方を考える**

 学校の係活動だけでなく自分の役割を忙しくても見つけ、達成感を味わえるように頑張りたい。このことは、家の手伝いでも「忙しいから」「疲れているから」を禁句として「ありがとう」がもらえるように頑張っていきたい。まずは、今日の洗濯物から…。

- この事例は、3つのポイントを生かした指導計画の一例です。各中学校では、学校や地域の実態に応じて工夫することが必要です。また、学びをつくり出すキャリア教育の視点から、次の内容を検討することをお勧めします。
  - 重点化した能力との関連を図り、目標(資質や能力)を焦点化・具体化する。
  - 重点化した能力を高めるための学習活動の工夫を加える。
  - 学習のまとめでは、重点化した能力を中心に「学び方」の振り返りも行う。



- この事例では、勤労観を高めることに重点を置いていますが、勿論、生徒は職場体験活動を通して職業観にかかわる新たな気付きがあります。指導する側は、勤労観にこだわりすぎることなく、職業観にかかわる気付きについても学習の成果として評価することも大切です。